



熊本赤十字病院

救命救急センター

フェローシッププログラム



## 【プログラム概要】

熊本赤十字病院の救命救急センターは北米型 ER、病院前救急診療科、外傷外科、集中治療科より構成されています。

救命救急センターでは後期研修が修了した医師（PGY6 以上）を対象に上記の科で 1-3 年程度のフェローシッププログラムをそれぞれご用意しています。

初期研修医、後期研修医を指導しながら、医師としてのリーダーシップ、マネジメントを学んで頂き、「どこに出しても恥ずかしくない指導医」を養成することを目標としています。

## 【各プログラム】

### ER+プレホスピタル フェローシップ

#### ○対象者

救急専攻医、内科専攻医、外科専攻医のいずれかの修了者を対象としています。

プレホスピタル、救急診療を学び、指導者として成長したい医師を募集しています。

#### ○目標

小児、妊産婦を含めた幅広い患者層の一次から三次までの救急診療ができる

救急診療においてリーダー的な立場に立つことができる。

プレホスピタルで適切な患者対応と病院選定ができる。

フライトドクター、カードクターとして独り立ちができる

#### ○カリキュラム特徴

##### ・ ER

当院は、年間来院数 50000 人、救急車 8000 台の ER 型救命救急センターで、なおかつ熊本県唯一の小児救命救急センターです。ER部門ではフロアのマネジメントや重症患者の対応のリーダーなどの業務の修練を行っていただきます。またEBMに則った指導を後輩へ教育をしていただきます。教育を提供できるか不安が有る方もいるかもしれませんが、当科では勉強会やslackなどのツールで、色々な疾患の情報を共有したりしているので心配ありません。多数傷病者発生などの災害発生時に、情報収集し災害対策本部の立ち上げと受け入れに向けた救急外来の準備も行ってもらいます。

#### ・プレホスピタル

当院は年間500件超のドクターヘリと年間100件前後のドクターカーを運用しています。業務開始前のブリーフィング、携行物資の確認と把握、早期医療介入のマネジメント、迅速搬送を目的とした適切な病院選定、搬送後に専門的加療が迅速にできるような情報の収集と伝達についてトレーニングしていきます。熊本市救急ワークステーション（救急車同乗や重篤事案対応）を通して、救急隊の活動を知り適切なフィードバックを行ってもらいます。

#### ○年間スケジュール

ER研修 6ヶ月

プレホスピタル重点研修 3ヶ月

院内他科診療科選択研修 3ヶ月（その他のフェローシップも選択可）

#### ○フェローの働き方

ER研修

12 時間勤務で、 8 時～20 時と 20 時～8 時の 2 交代制としています。

その中で週休 2 日になるように 1 ヶ月の中で調整しています。

プレホスピタル研修

1 ヶ月の中で 2 週間ほどプレホスピタル集中週間として運用しています。

集中週間の働き方はドクターカー・ドクターヘリの搭乗勤務を優先的に行う期間と定め、可能な限りその業務に専念してもらうことを予定しています。プレホスピタル集中期間は ER 日勤の兼務のみとして、夜勤は行いません。

### 外傷外科 フェローシップ

#### ○対象者

救急専攻修了者をはじめとし、外傷について学びたい医師。

専門科を問わず卒後 6 年目から卒後 10 年目前後までの医師を対象としています。

#### ○目標

プレホスピタルから集中治療管理まで一貫した外傷治療を行うことができる。

外傷の治療戦略を立て、チーム医療を行い患者の生命・機能予後へ貢献できる。

外科集中患者の診療では術後に特有な合併症を理解し、早期対応ができる

### ○カリキュラム特徴

プレホスピタルから ER の蘇生的治療(Damage Control Strategy)、集中治療に至る、あらゆるシーンで外傷診療のプロとして、外傷の治療戦略や集中治療を提供できる医師の育成を目標としています。

年々外傷患者は減少傾向にあることから、実地に加えて OJT への参加や手技等の教育を合わせ、独り立ちを目指します。

病棟管理では重傷外傷のみならず外科集中治療を経験していただきます。消化管穿孔による汎発性腹膜炎、敗血症性ショックへの対応を中心に、糞便性結腸閉塞による敗血症性ショック、絞扼性腸閉塞術後、術後心停止を含む病棟急変症例などの症例を経験できます。また集中治療科とは平日毎日カンファレンスを行っており、密に連携しております。内科系集中治療を含めた標準的な集中治療の勉強が可能です。

自由選択の 3 ヶ月では院内各科研修や、希望により院外研修の相談可としています。現在外傷外科へ所属する 2 名は隔月に外科研修を行っており、2023 年 4-9 月の間、合計して 80 件以上の外科定期手術を経験しています。各医師のスキルに合わせた一般外科手技の教育体制を、外科と構築しています。

### ○年間スケジュール

外傷外科研修 6 ヶ月

ER研修 3 ヶ月

院内他科診療科選択研修 3 ヶ月（その他フェローシップの部門も選択可）

### ○フェローの働き方

・ 7:30-16:05 平日 5 日間

時短勤務などは個別相談により

- ・ 日中は外科系・外傷 ICU 管理、外傷初期治療、外科手術応援、外傷手技の練習等。
- ・ 夜間休日のオンコールは個別相談により頻度を決定(フェロー中はバックアップ体制)

## ICU フェローシップ

### ○対象者

集中治療の分野に興味があり、集中治療を深く学ぶ意思を有する医師

医師年次、専門科については問わない

## ○目標

エビデンスと生理学的根拠に基づいた集中治療を実践することができる

他科の重症患者管理において、主治医と良好な関係を築きつつ、患者アウトカムの向上に努めることができる。

多職種カンファレンスのファシリテーションができる

後期研修医や他科からのローテーターへの教育ができる

終末期を迎えている患者に対して適切な緩和ケアを提供できる

院内急変対応のリーダーとして適切な蘇生を行いつつ、主治医の方針決定の手助けを行うことができる。

## ○カリキュラム特徴

当院のICUは16床あり、各専門科と協議しながらsemi closed ICU管理を行っています。

救急科入院（中毒、外傷、CPA蘇生後など）、内科系重症患者の集中治療管理（総合内科、呼吸器内科、消化器内科、膠原病科、腫瘍内科、神経内科）、外科系の集中治療管理（外傷外科と強力しながら）が主な業務です。2023年の時点では循環器内科、心臓血管外科はまだsemi closedな管理をしておりませんが、今後診療拡大に伴いサポートの範囲を広げていく予定です。2023年度は一ヶ月あたり平均30-35症例ほど新規に診療サポートさせていただいております。

朝、夕とベッドサイドカンファレンスを行い、エビデンスに基づいた治療方針をチーム内で共有し、科内でも勉強会や指導を盛んに行っています。またカンファレンスは外傷外科とも同時に行っており、外傷診療、外科診療も高度なレベルでディスカッションできます。初期研修医、救急科後期研修医もローテートしており、彼らに指導を行うことで、自身の知識が定着するような支援を行っています。もちろんフェローもスタッフから手厚い指導を受けることができ、教えながら学ぶことができます。

また院内のRRSを24時間体制で管理しており、予期せぬ心停止を防ぐための対応と同時に院内への啓蒙活動も行っています。

## ○年間スケジュール

集中治療科研修 6ヶ月

ER研修 3ヶ月

院内他科診療科選択研修 3ヶ月（その他フェローシップの部門も選択可）

## ○フェローの働き方

日勤帯は指導医レベルが3名、フェローが1-2名、研修医（初期＋後期）が2-3名の研修医のチームで屋根瓦体制での診療を行っています。

平日、休日合わせて7:30-16:05の勤務時間で週40時間になるように勤務を組んでいます。

個人の都合に合わせた休み希望なども柔軟に受け付けています。

夕方の引き継ぎのカンファレンス終了後は当直にバトンタッチして日勤帯は帰宅可能です。当直体制は日勤者のうち1人がそのまま担当し、翌朝日勤帯に引き継いで帰宅となります。当直回数は平均月4-5回で、当直明けを除いて丸一日休みは月に8-10回程度あります。当直中は原則1人で新規入院患者対応や集中治療管理を行いますが、必要に応じて院外待機のオンコール医師を呼び出すことができます。オンコールは月に2-3回程度ですが、それ以外の日には病院からコールが入ることはなく、オンオフのメリハリがついています。

